

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)長久手市南原山 計画	階数	地上13階
建設地	愛知県長久手市南原山18-1他7筆	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域/第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	350 人
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年2月9日
敷地面積	3,686 m ²	作成者	谷口結香
建築面積	920 m ²	確認日	2022年2月9日
延床面積	7,832 m ²	確認者	谷口結香



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 重点項目									
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">2.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">112.3 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	112.3 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	112.3 %								
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %								
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td></td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉		なし		〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉		なし	
〈外装材に使用した地域性のある材料〉									
なし									
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉									
なし									

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル				0.1	3.5	0.15	4.5	4.5	1.00	4.3	
1.2 遮音			住居の騒音レベル40dB以下を目標とする。	3.0	2.0	0.50		5.0	0.50		
1 開口部遮音性能			サッシT-2を使用。	0.5	5.0	0.50		4.0	0.50		
2 界壁遮音性能					3.0	1.00		5.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			Lr-45を目標値とする。		3.0	-		3.0	0.30		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			Lr-50を目標値とする。		3.0	-		4.0	0.20		
1.3 吸音					3.0	-		3.0	-		
2 温熱環境											
2.1 室温制御				0.3	2.8	0.35	3.0	3.0	1.00	2.9	
1 室温				0.5	2.6	0.50	3.0	3.0	0.71		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.63		-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	2.0	0.38		3.0	1.00		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	-		-	-		
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.20		3.0	0.29		
3.0 3.0				3.0	3.0	0.30		-	-		
3 光・視環境											
3.1 昼光利用				0.2	3.0	0.25	3.0	3.0	1.00	3.0	
1 昼光率				0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.35		
2 方位別開口				3.0	3.0	0.60		3.0	0.50		
3 昼光利用設備					-	-		3.0	0.30		
3.2 グレア対策				3.0	3.0	0.40		3.0	0.20		
1 昼光制御				0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.35		
3.3 照度				5.0	3.0	1.00		3.0	1.00		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.15		-	-		
3.0 3.0				3.0	3.0	0.25		3.0	0.29		
4 空気質環境											
4.1 発生源対策				0.2	3.2	0.25	3.6	3.6	1.00	3.5	
1 化学汚染物質			すべてF☆☆☆☆のものを採用している。	0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63		
4.2 換気				3.0	4.0	1.00		4.0	1.00		
1 換気量				0.4	2.0	0.40	3.0	3.0	0.38		
2 自然換気性能				3.0	1.0	0.50		3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	-		3.0	0.33		
4.3 運用管理				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
1 CO ₂ の監視				-	-	-		-	-		
2 喫煙の制御				3.0	3.0	-		-	-		
3.0 3.0				3.0	3.0	-		-	-		
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	2.8	2.8	1.00	2.8	
1 広さ・収納性				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60		
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	-		3.0	-		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	-		3.0	1.00		
1.2 心理性・快適性				3.0	3.0	1.00		-	-		
1 広さ感・景観(天井高)			居室の天井高を2.5m以上とする。	0.3	3.0	0.30	2.5	2.5	0.40		
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	-		4.0	0.50		
3 内装計画				3.0	3.0	-		-	-		
1.3 維持管理				3.0	3.0	1.00		1.0	0.50		
1 維持管理に配慮した設計				0.3	3.0	0.30		-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	3.0	0.50		-	-		
3.0 3.0				-	3.0	0.50		-	-		
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	2.9	0.31	-	-	-	2.9	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48		-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20		-	-		
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.1	0.33		-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②			3.0	0.23		-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.23		-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.09		-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			設備配管の耐用年数を20年程度としている。		3.0	0.08		-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔					4.0	0.15		-	-		
2.4 信頼性					3.0	0.23		-	-		
1 空調・換気設備				0.1	2.6	0.19		-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20		-	-		
3 電気設備				3.0	2.0	0.20		-	-		
4 機械・配管支持方法		②		3.0	3.0	0.20		-	-		
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20		-	-		
3.0 2.0				3.0	2.0	0.20		-	-		

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	3.6	3.6	1.00	3.4	
3.1 空間のゆとり			②	階高を3020としている。			4.2	4.2	0.50		
1	階高のゆとり			-	3.0	-		5.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-		3.0	0.50		
3.3 設備の更新性				1.0	3.0	1.00					
1	空調配管の更新性				3.0	0.17					
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17					
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11					
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11					
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22					
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22						
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	-	-	2.7	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	3.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性					-					3.1	
LR1 エネルギー					-	0.40				3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制				等級4Iに相当			3.0	4.0	0.33	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17				3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.93			3.0	3.7	0.33		3.7
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17				3.0	
集合住宅以外の評価											
4.1 モニタリング				3.0	3.0	-					
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	-					
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00					
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50					
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50					
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				2.8	
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15				3.0	
1.1 節水				3.0	3.0	0.40					
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60					
1				3.0	3.0	1.00					
2				3.0	3.0	-					
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63				2.7	
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07					
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.21					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。			3.0	4.0	0.25		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22				3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32					
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68					
1				-	-	-					
2				-	3.0	0.50					
3				3.0	3.0	0.50					
LR3 敷地外環境					-	0.30				2.9	
1 地球温暖化への配慮			①	-	3.0	0.33				3.0	
2 地域環境への配慮				0.3	2.6	0.33				2.6	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25					
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25					
1			独自	-	3.0	0.25					
2			独自	-	3.0	0.25					
3			独自	適切な駐輪及び駐車台数を設けた。			-	5.0	0.25		
4				-	3.0	0.25					
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33				3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40					
1			独自	-	3.0	1.00					
2			独自	-	-	-					
3				-	-	-					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40					
1				-	3.0	0.70					
2				-	3.0	-					
3				-	3.0	0.30					
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20					
1				広告物による照明を行っていない。			-	5.0	0.70		
2				-	3.0	0.30					

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)長久手市南原山 計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:112.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)長久手市南原山 計画

計画上の配慮事項	
総合	閑静な住宅街に計画された総戸数81戸の共同住宅である。周辺環境に配慮して敷地内を積極的に緑化を行っている。特に隣地沿いには緑地帯を設け、中高木を植えることで周辺に対して景観づくりしている。
Q1 室内環境	開口部にはLow-E複層ガラスを採用することで高い断熱性能を確保し、遮音性能の高いサッシとすることで快適な住環境としている。
Q2 サービス性能	階高を確保することで広々とした天井高を確保している。また建物を長期利用できるように日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	20%以上の緑化を行った。道路面にはみ出すように中木、高木を植栽することで近隣にも配慮した。さらに高木や中木を植栽することで、緑豊かな住環境を作ることを心掛けた。
LR1 エネルギー	各住戸内での積極的な自然風の通り抜けを可能にし、自然エネルギーの利用に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水コマの採用により環境負荷低減に寄与する。
LR3 敷地外環境	同規模の物件によりごみの量を推測してごみ置場のスペースを確保し、分別回収用ダストボックスの設置を計画している。また、ディスプレイを設置し生ごみの軽減を行っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。